受章 おめでとうございます

旭日双光章

吉岡洋介さん（美の浜）

昭和五十三年から三期九年間、笠岡商工会議所会頭を務められ、駅前の土地区画整理事業や大型ショッピングセンターの出店調整など、地域産業の発展に尽力されました。

「企業の寿命は三十年。その期間で創造と破壊を繰り返さなければならない。」と語る吉岡さん。昭和三十年代後半、県内の工業化が進展すると、家業の麦わら製品作りから電子産業に転身。京都のロームとともにワコー電器（現ローム・ワコー）を創設し、市内の企業誘致第一号となりました。その後も、マレーシアなどへ進出して起業家として成功を収められました。

また、四十七歳という若さで商工会議所会頭に就任してからは、主に駅前商店街の活性化に力を発揮されました。

現在は、私財を投じて設立した「ワコースポーツ・文化振興財団」の理事長として地域振興に尽力されています。

「これからは、スポーツや文化の部門で能力のある子どもたちを育てていきたい。」

黄綬褒章

花木美世子さん（押撫）

「押撫ブドウ研究会」を設立し、地域の農業活性化・生活向上に貢献。また、岡山県農山漁村生活交流グループ協議会会長などを務め、特産品づくりや郷土料理の開発にも尽力されました。

「グループの皆さんが好奇心と情熱をもって助けてくださいましたし、行政や関係機関とも連携しながら、私たちができることをやって来ました。皆さんのご協力とご指導があったからこそと感謝の気持ちでいっぱいです。」

最近では、食農教育の一環として、各地の小学校などでみそづくりを教えるとともに、井笠の味づくり研究会の会長として郷土料理の開発にも力を発揮されています。

今後について、「納豆のようなねばりのない大豆を発酵させて作る〝テンペ〟というのがあるんです。そのテンペ料理に挑戦してみたいと思っているんですよ。」と語る花木さん。その情熱が衰えることはありません。

瑞宝単光章

枝廣昌和さん（吉浜）

三十四年の永きにわたり、人命救助・消火活動に従事するとともに、火災危険地帯の水利設置基準の見直しなど施設整備にも貢献をされました。

「火消しの仕事は難しい。完璧というものがない。いつも消火を終えたあとにこうすればよかったという思いが湧いてくるものなんですよ。」

昭和四十二年に笠岡市消防本部に入署して以来、数々の災害現場で活躍。昭和六十三年の北木島町金風呂地区の火災では、夜間にも関わらず、生い茂る雑木と採石場が点在する山中を縫って消火活動にあたりました。「朝になって歩いてみて採石場の断崖絶壁を見たときにはぞっとしました。」また、水利設備の充実にも力を注がれ、市内の消火栓の場所は今でも頭の中に入っているとか。

「私は与えられた職務を遂行したまでです。良き上司、同僚、後輩、それから家族に恵まれました。皆さんに感謝しています。」

国本憲生さん（新横島）

三十一年の永きにわたり、法務事務官として職務を遂行し、社会の治安維持に貢献されるとともに、犯罪者の更生にも多大な尽力をされました。

国本さんは、「〝罪は憎めど人は憎まず〟の精神で仕事を続けてまいりました。犯罪という結果にとらわれず、いかに更生させるか、そして、再犯防止に役立てるかが私の責務であると認識していながらも難しさを感じていました。

どんな人間でも更生は可能です。犯罪という結果にとらわれず、大きな社会というひとつの器の中で愛をもって受け入れることこそ肝心だと思っています。今なお、悪質犯罪が後を絶たない時世に、犯した罪を非難するだけでなく、悪の根源を絶ち切る行政こそが一番大切と思っています。

いくら声を大にして矯正・更生と叫んでも決して犯罪のない住みよい社会は成り立ちません。それが私の最大の苦労であり、悔いの残るところでした。」と語っていました。